乳児保育Ⅰ　　山本智子

授業概要

「乳児保育Ⅰ」では、「乳児保育Ⅱ」とあわせて、保育士として乳児（0～2 歳児）を保育するうえで必要な基本的な考え方や対応の在り方を習得する。

そのために、「乳児保育Ⅰ」では、乳児の保育にあたって不可欠な、乳児の理解、ならびに、乳児の発育および発達支援において必要な基本的な知識を習得し、その内容と対応させながら、実践のための授業を実施する。

授業計画

第１回	ガイダンス
第２回	乳児の発育
第３回	乳児の生理
第４回	乳児の運動
第５回	乳児の心理１：情緒
第６回	乳児の心理２：社会性
第７回	乳児の心理３：認知
第８回	乳児の心理４：言語
第９回	乳児の発育および発達支援
第10回	乳児とコミュニケーション1
第11回	乳児とコミュニケーション2
第12回	乳児と移動1
第13回	乳児と移動2
第14回	乳児と遊び1
第15回	乳児と遊び2
第16回	試験

到達目標

乳児の保育において必要な基本的な知識や考え方について説明できる。

乳児の保育において必要な基本的な技能の方法について説明し実践できる。

保育士という専門職であるために、個人の主体的な学習、および、受講者間での共同的な学習を実践できる。

履修上の注意

「乳児保育Ⅰ」は、乳児の保育に必要な基本的な知識や技能を習得する授業である。そのため、受講生には、保育士という専門職として、最も幼い子どもたちのいのちを守り、かつ、最も幼い段階から子どもたち一人ひとりの発育および発達を支援する役割を果たすのだという高い意識と誇りをもって、主体的に授業に参加し内容の習得に努めることを求める。

予習復習

「乳児保育Ⅰ」では、受講生の学習内容や学習習慣の定着の支援、および、乳児保育の質の向上を実現するために、以下の方法により、復習を重点化した授業を実施する。

1．原則として、各回の授業に関わる課題の提出を求め、授業への参加と課題の提出とをあわせて出席とみなす措置をとることがある。

2．事前に周知したうえで、授業の習得度を確認する試験を実施することがある。

評価方法

参加態度、課題、実技試験、小試験、共同学習（50%）。

筆記試験（50%）。

以上を総合的に評価する。

テキスト

テキストを使用せず、レジュメを用意する。

参考文献については授業中に提示する。